

平成22年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画に対する各委員評価一覧

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
I 大学の運営に関する目標を達成するための取組	B	B	
		B	○各部門において毎年見直しが行われ、改善策が講じられていることは評価に値する。
		B	○課題であった、アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの完成。
		B	
		B	
1 教育の成果に関する目標を達成するための取組	B	B	
		B	
		B	○(新聞報道より) 医学部の男性教授が学生より損害賠償を求める訴えを起こされたこと。(トラブル発生は平成23年2月 訴えは4月28日)
		B	○医学部における教育の改善が進んでいる。医師国家試験に関しては、他大学においても年度による変動が激しいので、医学教育は国家試験のためだけではないものの、次年度を期待したい。
		B	○懸案の課題となっていたディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの全てが完成し、併せて学生の声を反映し、ニーズを踏まえたカリキュラムの再編などカリキュラム改革にも取り組んだことは一定の評価をしたい。 ○第Ⅱ期以降に教育の質の向上などに資することを期待したい。

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
1 学部教育の成果に関する目標を達成するための具体的方策	B	B	<p>○国際総合科学部において英語による授業科目を年度計画で想定した28科目を超え35科目開講したことは評価できる。</p> <p>○医学科において入学定員の増加とも関連し、担当教員の増員を図るとともに共通教養、専門教育を通じ教育内容の見直しを行い、23年度以降の臨床実習、リサーチマインド養成強化を目指す新カリキュラムを策定したことを評価する。</p> <p>○看護学科において附属2病院看護部との連携を深めるとともに、看護師・保健師国家試験合格率100%を達成したこと、また附属2病院への就職率が44%に改善したことを評価する。</p> <p>○国際総合科学部においてクラス担任制改善の必要性が指摘されているにもかかわらず十分な取組みが進んでいないことは残念である。積極的取組みを期待したい。</p>
		B	<p>○英語で行う授業を開講したこと、海外インターンシップや国際ボランティア活動への参加者が増えたことなど、国際化への積極的な動きが見られる。医学部の定員増に対する措置を年々強化し、質の向上を図って欲しい。</p>
		B	<p>○英語による授業を年度計画に対して増加させたこと。</p> <p>○看護学科卒業者の附属2病院への就職率が前年度の29%から44%に向上したこと。</p> <p>○看護師・保健師国家試験の合格率100%。</p> <p>○医師国家試験の合格率が前々年度に続いて低下してきている。(受験者人数は平成20年は65人で96.9%の合格率、平成21年は60人で95%の合格率、平成22年は64人で92.2%の合格率)</p> <p>○国際総合科学部について、卒業後の進路について、種々取組んでいるが、その結果、学生の就職状況が明確でない。</p>
		B	
		B	<p>○大学院教育との一貫性を高めるため国際総合科学部のコースを再編し、3学系7コースを4学系12コースへ変更し、教育、研究の方向性が明確になったことを評価し、今後教育の成果が一段と高まることを期待したい。</p> <p>○全コースにおいて英語のみで授業を行う専門科目を年度計画を大幅に上回る35科目としたことも国際化をめざし推進する意味で評価したい。</p> <p>○医学科定員増に関連して、教育の質の確保に向け教員の増員、TAの重点的配置など対応の努力は認められるが、一方で高い水準を誇っていた医師国家試験の合格率が低下傾向を示しており懸念される。早急に原因究明を図り改善に努めて欲しい。</p>
1 大学院教育の成果に関する目標を達成するための具体的方策	B	B	<p>○生命ナノシステム研究科において新規にJSTとJICAが連携する新プログラム(SATREPS)を獲得し今後5年間の新事業をスタートさせたことを評価する。一方改善の必要性が指摘されている主副指導教員制度の改革について必要な措置が十分講じられていないことは残念である。</p> <p>○医学研究科において国立感染症研究所と連携大学院協定を締結したことを評価する。</p>
		B	<p>○“SATREPS”の成果を期待する一方、大学院教育の一層の充実と学生の指導・支援に力を注ぎ、就職先未定者がでないよう努力されたい。</p>
		B	<p>○生命ナノシステム科学研究科の「地球規模課題対応国際科学技術協力事業」に採択され、多額の研究費が獲得できたこと。</p> <p>○第1期中期計画の「木原生物学研究所等の生命科学分野の再編を推進する」が実施されなかった。</p>
		B	
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
2 教育内容等に関する目標を達成するための取組	B	B	
		B	
		B	
		B	○国際総合科学部のコース再編の準備は重要である。医学部では、カリキュラム改革、FDの実施、教育へのTAの設置など、学生数の増も考慮に入れた改革が進んでいる。
		B	
2 学部教育の内容等に関する目標を(1) 達成するための具体的方策	B	B	○25年度入試改革の検討結果を取り纏めたとのことであるが、その具体的方向性を明確にされたい。アドミッションズセンターを中心に入試広報・情報収集等にさまざまな取組みが行われていることを評価する。 ○国際総合科学部によろやくFD推進委員会が設置されたものの学部としての研修会は1回開催されたに留まるなど、学部としてのFD活動への積極的取組みが遅れていることは残念である。その改善を期待したい。 ○医学部においてFDに積極的に取組み、特に「学生研修医の声を聞こう」のテーマのもとに多くの学生、研修医、職員の参加を得るなどの活動を展開していることを評価する。 ○学部のコース再編に関連するとはいえ懸案のGPA制度の導入が遅れ、第1期期間中に実現できなかったことは残念である。
		B	○英語教育の一層の強化が進められているが、PEは学生に身につけているのかを検証する必要がある。GPAの導入は、国際化にも求められているので、予定通り23年度中にも完成すべき。
		B	○医学部の新カリキュラムの策定と「学生研修医の声を聞こう」で過去最高の参加者を得て、問題解決に向けたサイクルの確立を行った。 ○GPAについては、第1期中期計画期間中に導入できなかったこと及びITシステムの一部改修が平成23年度に先送りとなったことは遺憾である。
		B	○国際総合科学部のコース再編の準備は重要である。医学部では、カリキュラム改革、FDの実施、教育へのTAの設置など、学生数の増も考慮に入れた改革が進んでいる。
		B	○GPAについて年度計画では「適用基準などの実施内容、方法を決定し、ITシステムへの導入を進める」とあったが、コース再編作業の遅れもあり、運用方法など方針の決定は見たものの第1期の期間中にまとまらず、結局本格導入は平成23年度以降に先送りされたことは遺憾である。
		B	○生命ナノシステム研究科の博士後期課程を中心にいくつかの専攻で入学定員割れが生じていることは遺憾である。入学定員の見直しを含め改善策の検討を期待したい。 ○同研究科において大阪大学等との特別研究学生交流協定の締結、ソウル国立大学薬学部との基本協定締結など内外の大学との連携を積極的に進めていることを評価する。
		B	○国内外の教育・研究機関との連携が進んだが、有効に運用して欲しい。
		B	
		B	
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
2 教育の実施体制等に関する目標を (3) 達成するための具体的方策	B	B	○研究院についてその目的や役割を見直し23年度から学術院として再スタートすることになったことは評価するが、新組織が実質的に機能するためにはその理念・方向性が大学の構成員に周知徹底されることが不可欠である。特に年度計画で定めた「学部・大学院横断的な教育体制の確立、コース再編等による学部教育の改善に取組む」という教育面でのこの組織の役割についての共通理解が徹底されることを期待したい。
		B	○学術院の始動に向けた準備・研究ユニット・国際化ユニット等、新しい方向への動きが見られるが、長期展望のもとに動くことを期待する。
		B	○研究院について、基本的な目的や役割等を整理して23年度から学術院として再編されたこと。 ○学術院としての組織の目指す方向性や理念等が全ての教職員に周知・徹底が図られているか。
		B	
		B	○懸案となっていた研究院の再編について基本的な目的や役割等が整理され、平成23年度から学術院として本格始動することとなったことは大きな前進であるが、組織が意図された目的に沿って機能的、効果的に運営されるかはこれからの課題であり、第Ⅱ期中期計画の推進に十分活かされることを期待したい。
3 学生の支援に関する目標を達成するための取組	B	A	○学生向けのポータルシステムを構築し、学生がさまざまな機能を利用しうようになるとともに、進路情報に留まらず入学から卒業までのキャリア支援に有効なデータの蓄積を可能とするようにしたことは学生生活支援のために極めて有益であり、高く評価したい。 ○大学と学生自治団体との定期的な情報交換会を開始したことは、大学構成員としての学生の位置づけを踏まえつつその意向の的確な把握を積極的に進めようとするものであり、評価し、成果を期待したい。 ○学生の生活実態に即し、一般学生について一定の経済困窮度によって授業料の全額・半額免除を判定する新制度を導入したことは、学生の生活実態に即して適切な措置であり評価したい。
		B	○IT化によるキャリア支援の整備は評価するが、face to face の支援も強化すべきと思う。
		A	○IT環境の充実や、学術情報センターにおけるガイダンスの開催、トイレ等の改修など、学習環境の向上に向けた取組。 ○学生向けのポータルシステムの構築により、進路情報のみならず、キャリア支援、就職支援に必要なデータがより多く収集できるようになったこと。 ○東日本大震災の被災学生に対し、入学金、授業料の減免を行う特別支援制度を設け、支援を図ったこと。
		B	○学生の経済的支援は非常に重要であり、進歩がみられる。
		B	○キャリア支援活動に関連して学生向けのポータルシステムを構築(運用開始は平成23年度より)し、進路情報のみならず入学から卒業までのキャリア、就職支援に有効なデータ蓄積が可能となったことは評価できる。 ○卒業生の就職決定者率は93.5%と昨今の景気状況の下ではかなり高い水準を示しているが、一方で留年者の数も相当数あること、また就職先の内容が希望されたところかどうかなど、内容を分析し実質的な評価が望まれる。

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
4 研究に関する目標を達成するための取組	A	B	<p>○先端医科学研究センターを中心とする科学技術振興調整費について再審査の結果「継続課題」として平成29年度までの事業継続が決定し、補助金が増額されることとなったことは高く評価したい。</p> <p>○研究院の再編成が遅れているため、教員の研究成果の評価及び点検評価システムの構築が遅れていることは残念である。</p> <p>○外部研究費の獲得について、奨学寄附金の受入れは着実に増加しているものの、科学研究費補助金の採択額や受託共同研究費の受入額が減少し、外部研究費総額が減少していることは極めて残念である。トータルとしての外部研究費の確保に一段の努力を期待したい。</p> <p>○生命科学分野の再編が第1期期間中に実現できなかったことは遺憾である。今後のスケジュールを明確にするとともに、現在の検討内容においては、国際総合科学部のコース再編などの教育面の取組が中心となっており、中期計画に掲げられていた研究の推進に向けた取組が見られず、また木原生物学研究所の関わり方も明確になっていない。市大全体で生命科学分野をどのように強化・推進していくのかをより明確にされたい。</p>
		A	<p>○外部研究費獲得の支援も行い、22年度の獲得総額も約27億円に達している。内部研究費も領域横断的ユニットによる研究を開始するなど、精力的な取り組みが窺える。</p>
		B	<p>○先端医科学研究センターを中心として取り組んでいる「科学技術振興調整費」の再審査に通過し、研究プロジェクトの続行と補助金の増額、更なる体制の強化が図られること。</p> <p>○大学の重点研究分野を踏まえた、研究院における、より具体的な点検・評価システム構築が年度計画通り実施できなかった。</p>
		A	<p>○研究院の評価システムの先送りなど、研究院の運営にやや遅れがみられる。</p>
		B	<p>○科学技術振興調整費について再審査の結果、事業継続が決定したほか、科学研究費補助金の継続採択や地球規模課題対応国際科学系技術協力事業への新規採択もあり、一定の成果を上げたと評価したい。</p> <p>○年度計画では「研究院部会で研究面での点検・評価システムの構築等に向けた検討を実施する」とあったが、研究院の再構築と重なり、より具体的な点検・評価システムの検討は平成23年度以降に先送りになったことは遺憾であり、早急に取り組んでほしい。</p>
II 地域貢献に関する目標を達成するための取組	A	A	<p>○地域貢献センターを中心に教養講座、市民医療講座等の開設をはじめ生涯学習・地域貢献を目指す各種の活動が市・区役所等外部機関の連携を得ながら広域的に展開され、またそれらの事情を踏まえ、新聞社の地域貢献ランキングにおいてもその順位を大幅に上昇させていることを高く評価したい。</p> <p>○横浜市が設立する大学にふさわしく、同市の各種審議会等への参加をはじめ、地域貢献センターの都市政策部門を中心に同市の政策と連携する活動が積極的に進められようとしていることを評価する。今後とも同市のシンクタンクの機能のいっそうの充実に期待したい。</p>
		A	<p>○地域貢献に対する各種取り組みがなされ、新聞紙上でのランキングも急上昇した。</p>
		A	<p>○「地域貢献センター」を中心とした活動</p> <p>(1) 日本経済新聞社の「大学の地域貢献度ランキング」において、平成21年度の11位から平成22年度は2位に上昇した。</p> <p>(2) 都市政策部門において、横浜市の政策と連携して取組を進めていることや、審議会への参加人数が増加している。</p> <p>(3) エクステンション講座について、市内公共施設の活用、市・区との連携を進め、講座数、開催回数、受講人数を大幅に増加させている。</p>
		A	<p>○地域貢献を重視するというメッセージは理解されつつあり、今後が期待される。</p>
		A	<p>○地域貢献センター都市政策部門では従来から指摘されていた横浜市の政策部門との連携を深め、審議会等への参加や政策提言など取組に進展が見られた。</p> <p>○市民対象のエクステンション講座や附属病院等が実施する市民講座で開催回数、受講人数とも飛躍的に増加した。特に開催地域をキャンパスにとどまらず市内公共施設の活用や市、区役所との連携により参加し易くなったことが増加に繋がったものと高く評価したい。</p> <p>○地域貢献センターを中心にこうした成果は外部の日経グローバルによる大学地域貢献ランキングで全国第2位と高い評価につながり、率直にその成果を認めたい。</p> <p>○研究成果や知的財産の産業界への還元については企業との連携強化、共同研究、受託研究等の推進に更なる努力を期待したい。</p>

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
Ⅲ 国際化に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>○留学生受入れ体制の整備にさまざまな取組みが進められていることは評価するが、受入れ数は前年度よりは若干改善したものなお低迷しているといわざるを得ないことは残念である。受入数増加に向けてさらなる努力を期待したい。</p> <p>○学生の海外派遣についても努力が重ねられていることは評価するが、なおいっそうの取組みを期待したい。特に短期の派遣とともに正規の留学の一層の推進についての取組みを期待したい。</p> <p>○国際シンポジウム及び第1回総会の開催など21年度に立ち上げたアカデミックコンソーシアムの事業の具体化を進めていることを評価する。このことを含め、21年度に策定したミッションステートメントに基づく各種の取組みがロードマップに従い今後着実に進められることを期待したい。</p> <p>○サイエンスサマープログラムが学生からの高い評価も踏まえ、23年度から共通教養科目として正規の授業化する準備が整ったことを評価する。</p>
		B	○学生の留学・海外派遣に対する経済支援を更に強化し、在学中の海外体験を促進することを期待している。
		B	○ミッション・ステートメントに基づき、前年以前に比べ、(1)海外の協定締結大学等派遣学生数の増加 (2)海外大学で受講した授業の単位認定の科目数の増加 (3)海外フィールドワーク支援プログラムの充実等。 ○留学生受入に関しては、前年以前と殆んど変化なし。
		A	○サイエンスサマープログラムや生命科学のフロンティアなど、意欲的な取組みがみられた。
		A	○平成21年度に策定されたミッションステートメントをベースにアカデミックコンソーシアムの取組を進め、3つのユニットを立ち上げ、国際シンポジウムや第1回総会を開催するとともに世界銀行と包括的協定を締結し、計画は着実に実施され、また2010APECでも一定の役割を果たし成果を上げた評価したい。 ○留学生の受け入れ、学生の留学支援、海外大学等とネットワーク構築など今後の課題も多く第Ⅱ期中期計画の中で国際化について一段の成果を期待したい。
Ⅳ 附属病院に関する目標を達成するための取組	B	B	○診療報酬改定もありサービスの質を保ちつつ入院・外来患者数と単価、人件費比率等の目標を達成するなど病院経営の安定を図るとともに、大震災におけるDMATの派遣、地域医療連携の充実、高度医療の推進など大学病院としての役割を踏まえた活動を適切に展開している。
		B	
		A	○医療安全管理やサービスの質を保ちつつ、診療報酬増改正もあり、入院・外来単価、人件費比率等の目標を概ね達成しつつ、高度・先進医療の推進や良質な医療人の育成を行った。
		B	
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
1 安全な医療の提供のための取組	B	B	<p>○安全な医療提供を目指し、両病院間の意見交換・情報の共有を図り、また各種の研修を継続的に実施するとともに、新たにインシデントに関わるRCA分析の実施(附属病院)、コンフリクトマネジメント研修(センター病院)の実施などの各種の取組みが積極的に進められていることを評価する。</p> <p>○東日本大震災において両病院から医療救護班等を数多く派遣したこと、特にセンター病院からDMATを5日間派遣したことを高く評価する。一方附属病院でDMAT派遣の体制が整っておらず派遣に至らなかったことは残念である。体制の整備に工夫されたい。</p>
		B	<p>○天災に対するより一層の安全管理体制(施設についても)を整えて欲しい。</p>
		A	<p>○カルテ開示、インシデント報告、リスクマネージャーの配置人数、医療安全研修の実施数、院内感染対策委員会の開催回数等について順調に取り組んだ。</p> <p>○東日本大震災への対応として、附属2病院からの医師等の派遣、被災者の受入、DMATの派遣等の取組を実施した。</p>
		B	
		B	<p>○医療安全文化の醸成について研修会、講習会を定期的で開催し、安全意識の高揚と知識の共有化に努め、附属病院ではRCA分析手法による根本原因究明とその改善等の立案などの取組を進めたことは評価できる。</p> <p>○インシデント報告は附属2病院とも年々増加傾向にあり、平成22年度は附属病院が4千件、センター病院が7千件の大台を越え懸念される状況がうかがわれ、医療安全に一層の改善努力を期待したい。</p> <p>○東日本大震災への対応として附属2病院からの医師等の派遣、被災者の受け入れ、DMATの派遣など実施したことは評価したい。</p>
2 健全な病院経営の確立のための取組	B	A	<p>○両病院を通じて病床利用率及び医薬材料比率は目標に達しなかったものの入院・外来の患者数・診療単価は増加し、人件費比率は年度計画をクリアするなどにより医業収益の増加をみたことは評価できる。</p> <p>○両病院を通じて的確な経営情報を得るため経営改善に関するDPC資料の活用に取組んでいることを評価する。</p>
		B	<p>○病院経営に関する諸種の取り組みは評価できるが、横浜市のシンボルとなるような病院づくりに励まされたい。省エネ対策は順調に進んでいる。</p>
		B	<p>○附属2病院ともに、入院・外来単価を向上(診療報酬改定の影響もあり)、患者数も増加。</p> <p>○一部の医薬品、消耗品、医療機器の附属2病院での共同購入。</p> <p>○附属2病院ともに、病床利用率が減少。</p> <p>○医薬材料費比率については、中期計画で掲げた数値目標の達成ができなかった。</p> <p>○医薬品等の盗難や紛失の把握や適正在庫の把握ができるように払出管理を行う必要あり。</p>
		A	<p>○両病院ともに着実な経営改善がみられる。</p>
		B	<p>○附属2病院とも入院、外来単価の向上に加え患者数も増加し、医療収益が計画を大幅に上回る増収となり、診療報酬の改定による外的要因の影響も少なくないが、健全な病院経営に大きく寄与したことは評価したい。</p> <p>○人件費も計画目標を達成し改善されたが、これも外的要因によるところもあり、より詳細な分析により評価する必要がある。</p> <p>○医療材料比率については様々な努力もかかわらず数値目標未達に終わり、後発医薬品の採用、価格交渉の強化、在庫の適正化など一段の努力を期待したい。</p>

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
3 患者本位の医療サービスの向上と地域医療への貢献のための取組	B	A	○附属病院において連携病院協定の締結、MRI他院依頼システムの整備、地域医療連携研修会の実施など地域医療連携の充実に積極的に取り組んでいることを評価する。
		B	
		A	○地域の医療機関との連携協定が年度計画より多く締結されたことや、地域医療連携研修会の実施。 ○待ち時間の短縮。
		A	○地域医療連携の体制整備が進んでいる。
		B	
4 高度・先進医療の推進に関する目標を実現するための取組	B	B	○年度計画が順調に実施されている。
		B	
		B	
		B	
		B	
5 良質な医療人の育成に関する目標を実現するための取組	B	B	○非常勤診療医採用枠の創設(附属病院)、夜間保育の充実(センター病院)等を通じて特に女性医師の支援の充実に努めていることを評価する。 ○研修医の育成に関しさまざまな努力が重ねられているにも関わらず、センター病院において結果的に定員割れを生じたことは残念である。
		B	○女性医師の就労支援を積極的に行い、医師不足の対策とすべきである。女性医師の養成に多額の費用を要しているため、女性も社会に貢献できるよう配慮すべき。子育てを行う短い期間の支援があれば、生涯仕事を続けることが可能であることの認識が必要。
		C	○非常勤診療医採用枠の創設など女性医師支援を充実させている。 ○市民総合医療センターにおいて、医療麻酔を不正使用するという不祥事が発生したが、医療人としてあってはならないことが起きた。
		B	○研修医の定員割れを防止するための広報活動などの工夫が望まれる。
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	B	C	○第1期中期目標期間の最終年度にあたり、6年間の実績及び課題を整理しつつ次期計画の策定に至ったことは評価できるが、センター病院における医療麻薬不正使用や大学院等従事手当などの過年度人件費の未払いによる臨時損失の計上などコンプライアンスやガバナンスにおけるいくつかの問題が生じたことは遺憾である。
		B	
		B	○法人全体のガバナンス体制が十分に機能していないのではないか。(「内部統制上」の問題がある)
		B	
		C	○和解したとはいえ医学部長会解任に絡む裁判事件は極めて異例の事態であり大学の信用を大きく損ない、校内外に禍根を残す結果となった。改めて組織のガバナンス、人事のあり方、相互の意思疎通などを見直し、全力を挙げて信用回復と体制立て直しに努めて欲しい。 ○センター病院の医師・看護師による不祥事も極めて遺憾なことであり、改めて職業倫理遵守の徹底、コンプライアンス意識の醸成に努めるとともに、調査委員会で策定された再発防止策を着実に実行してほしい。
1 経営内容の改善に関する目標を達成するための取組	B	B	○大口寄付の獲得を含め外部からの寄付金が前年度実績を大幅に増加したことは評価できる。 ○異常気象にもよることはいえキャンパス全体でエネルギー使用量の削減目標を達成できなかったことは残念である。 ○職員の超過勤務管理が適正に行われず、大学及び附属病院において計画を越える支出となったことは残念である。 ○文部科学省の委託事業により取得し産業界に開放していた鶴見地区のNMR900が不具合により長期間にわたって使用できなくなっていることは遺憾である。 ○経費抑制の一環として法人全体としての共同購入、一般競争入札の導入、発注システムの改善の検討等の取組みを進めていることは評価できる。
		B	○自己収入の増加、経費の抑制、施設設備の活用など、手の届く範囲での経営改善に向けた努力は行われている。
		A	○自己収入の増加に関する取組、公開講座、寄附金、預金の金利等の増加に務めた。 ○経費の抑制に関して、法人全体で共同購入の準備や大学での一般競争入札の実施。 ○月次決算の精緻化による経営の効率化。 ○鶴見キャンパスのNMRの不具合の解消が遅れ、設備の有効活用ができなかった。 ○省エネ関係で、エネルギー使用量の削減目標未達成。
		B	○NMRは当大学の柱の一つであり、回復をお願いしたい。
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組	C	C	<p>○センター病院の医師及び看護師による医療麻薬不正使用という不祥事が発生したことは極めて遺憾である。調査報告書に基づく再発防止策、理事長メッセージに従い大学構成員のコンプライアンス意識・職業倫理の遵守の徹底を図られたい。</p> <p>○平成19年度以降の大学院等従事手当・医師超過勤務手当の執行管理が適正に行われず、22年度に臨時損失を計上するに至ったことは極めて遺憾である。労働に対する適正報酬の確保という側面を含め、かかる事態の再発防止に的確に取組まれたい。</p> <p>○これまで幾度か指摘した教員のテニュア制度やサバティカル制度の検討が進まず、職員についても給与制度の改正が行われぬなど教職員のモチベーション向上と深く関る事項の検討、具体化が進んでいないことは大変残念である。人事管理の基本となるこれらの制度の重要性に改めて思いを致し、その整備にむけてさらなる積極的な取組みを期待したい。</p> <p>○コース再編の趣旨に沿った教員の採用が進められているとのことであるが、昨年指摘した国際総合科学部における専任教員の選考に関する基本方針の整理との関連性を明確にされたい。</p> <p>○安定的な大学運営に資する一環として、横浜市派遣職員の削減に向けて固有職員の採用、育成を進めていることは評価できる。</p> <p>○USBメモリ盗難事故を踏まえ、リモートファイルサービスの構築が進められていることは評価できる。</p>
		C	<p>○市民総合医療センターの不祥事は、個人的な問題であるが、大学全体として気を引き締めて今後の発展に立ち向かって欲しい。</p>
		C	<p>○市派遣職員の削減に向け、固有職員の採用・育成を進めている。</p> <p>○市民総合医療センターにおいて、医師、看護師による麻薬施用という不祥事。</p> <p>○法人独自の人事給与制度に関する主な改正には至らなかった。</p> <p>○テニュア制度やサバティカル制度といった教員のモチベーションの一層の向上のための制度の具体化が進んでいない。</p>
		C	<p>○薬物使用に関する不祥事はシステムの問題と考え、改善をお願いしたい。</p>
		C	<p>○人事給与制度について年度計画では「能力、実績が反映される人事給与制度を構築する」とあったが、先送りされた。法人としての給与制度と適正人員を早朝に確立することを期待する。</p> <p>○大学の人件費率について算出方法に課題があったとはいえ、数値目標を達成できなかったことは遺憾である。また超過勤務の管理不徹底からか過年度分の支払いが発生するなど、管理上の課題もあり早急に改善してほしい。</p> <p>○内部監査について、監事、内部監査人、会計監査人の3者で監査連絡調整会議を開催し、情報の共有等、協力体制を構築したことを評価するが、このことにより実質的に内部監査が強化され、内部統制の充実に繋がることを期待したい。</p>

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
3 広報の充実に関する目標を達成するための取組	B	B	○情報発信を強化するため従来ルートに加え、国の省庁の記者クラブや外国特派員協会を活用しようとしていることは評価できる。
		B	○広報活動に学生の視点を加えたことは評価できる。広報活動が、優秀学生の獲得に繋がることを期待する。
		A	○大学広報、文部科学省、厚生労働省記者会への発信など、大学の取組を多くの人に発信している。
		B	
		B	
VI 自己点検・評価、認証評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための取組	B	B	○年度計画が概ね順調に実施されている。教員組織編制の適正化の一環としての学術院の設置、教育改善の一環としてのアドバンスドPEの正規授業科目化など、大学認証評価での指摘事項を踏まえた取組みが着実に進められている。 ○大学情報の公開について、国の法令で義務付けられた事項以外の事項についても公開に積極的に取組みことを期待したい。
		B	○認証評価の課題に取り組み、改善が見られる。
		B	○認証評価の結果を受けて、大学全体として具体的な改善に取り組んでいる。 ○評価委員会の指摘に対し、具体的に進展しない点もある。
		B	
		B	○評価結果を大学運営の改善に反映させる体制、PDCA、サイクルも組織の中に浸透しつつあり、これまで指摘されていた諸課題について積極的に取り組まれた努力は率直に認めたい。しかし第Ⅰ期中期計画の当初計画に対してやや進捗が遅れたもの、あるいは先送りになったものもあり、第Ⅱ期中期計画の中で進捗管理をさらに徹底し、トップの強いリーダーシップの下、早期実現に向け努力を願いたい。
VII その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組	B	B	○年度計画が概ね順調に実施されている。
		B	
		B (C)	○平成22年度に過年度大学院等従事手当・医師超過勤務手当の追給が343百万円臨時損失として計上された。このことは、(1)人事管理面 (2)会計処理の年度の適正性面 (3)職員の健康管理面 等に大きな問題である
		B	
		B	

年度計画(項目)	自己評価	委員評価	コメント
1 安全管理に関する目標を達成するための取組	B	B	<p>○超過勤務者への対応、産業医による健康診断受診書の確認の不徹底など、職員の健康管理への取組みに不十分な部分が見られることは残念である。健康管理の充実を進められたい。</p> <p>○学生に対する防災メール登録の啓発を行うとともに八景キャンパス防災マニュアルを制定しその実働訓練を行うなどの日常的な取組みが、大震災当日の的確な対応につながったことは評価できる。</p> <p>○ハラスメント発生防止への取組みをさらに強化されたい。</p>
		B	○3月1日に地震を想定した実働訓練が行われており、東日本大震災の折に効果を検証することができた。
		B	○地震を想定した実働訓練の結果、今回の東日本大震災においても的確に対応された。
		B	○安全衛生委員会で、80時間以上の超過勤務者についての面接をしていない。
		B	<p>○平成22年度の決算で過年度分の未払い超過勤務手当が多額に計上されており、超過勤務の管理不徹底が指摘された、法令違反にかかわる問題であり、かつ健康管理上も懸念されることであり、早急の実態把握に努め適正な人員配置など対策を期待したい。</p> <p>○平成23年2月に発生した医学部教員による医学科学生に対する暴力行為はきわめて遺憾な事件であり、大学側の対応にも課題を残した。改めてハラスメントについての教職員の意識啓発の徹底と組織体制の見直しを図り、再発防止に努めてほしい。</p>
2 情報公開の推進に関する目標を達成するための取組	B	B	○年度計画が概ね順調に実施されている。
		B	○個人情報の保護には、万全の体制をとらねばならないが、23年度よりリモートファイルサービスが導入されるとのこと。大学の情報公開は推進せねばならない。
		B	
		B	
		B	
Ⅷ 予算、収支計画及び資金計画			<p>○月次決算の精緻化を進め、経営状況を分析し、資金を柔軟に活用するといった意義が法人内に浸透し、適切な予算執行がなされた。</p> <p>○人件費関連で343百万円の臨時損失が発生した。</p>

年度計画(項目)	自己 評価	委員 評価	コメント
----------	----------	----------	------

■備考(総合的な評価コメント等はこちらにご記入ください。)

			<p>○第1期中期計画期間の最終年度にあたり、6年間の成果と課題を総括しつつ、次期計画期間への移行作業を順調に進めたことは評価できる。第1期期間中に積み残され次期中期計画期間に持ち越された課題について、今後の着実な実施を期待している。</p> <p>○特に、国際総合科学部のコース再編、大学院の具体的な活動展開、国際化ミッションステートメントに基づくロードマップの着実な実施等は、次期計画においても大きな柱となっており、その確実な実施を期待している。</p> <p>○健全な病院経営を基礎としつつ、安心・安全でより高度の医療を市民に広く提供し、同時に質の高い医療人を育成することは大学病院に課せられた基本使命であり、引き続きそれらの実現への努力が重ねられることを期待する。</p> <p>○年度の最終時期に医学部長選任問題が浮上したことは、昨秋のセンター病院における医療麻薬の不正使用問題と並んで法人運営への信頼を揺るがしかねない大きな問題である。両問題を通じ、任命責任の在り方を含む適正なガバナンスの徹底及び構成員全員のコンプライアンス意識のさらなる醸成等を通じて、法人運営への市民の信頼の確保に全構成員を挙げて取組まれたい。</p>
			<p>1. 平成22年度の年度計画(項目)ⅠからⅦまでの項目毎の取組については、概ね年度計画通り実施されたと考える。</p> <p>2. 特記すべきことは、「法人全体のガバナンス体制」が十分に機能していないのではないかと。(過去数年間にわたって、下記のような問題が発生しているが、その都度の個別対応に終わっているのではないかと)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過年度及び当年度の大きな問題 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成19年度～大学院研究科における学位審査等に係る不祥事発生</li> <li>(2) 平成20年度～奨学寄付金の執行等に関する不適切な処理の発生</li> <li>(3) 平成21年度～USBメモリの盗難事故の発生</li> <li>(4) 平成22年度～市民総合医療センターにおいて、医師・看護師による麻薬施用という不祥事発生</li> </ul> </li> <li>・ 当年度のその他 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 人事案件で訴え</li> <li>(2) 学生より教授に対する損害賠償の訴え(新聞報道)</li> </ul> </li> </ul> <p>以上の如く、ここ数年間、毎年のように「事件」が起きており、大学法人として信用を失墜させる行為が発生している。</p> <p>結論として、問題が発生してから個別対応でなく、新しい制度として、「法人全体のガバナンス体制」を上場企業で行っている「内部統制制度」等を参考に構築することが必要であると考えます。</p>
			<p>○地域本位、学生本位の教育を掲げた本学の理念に従い、国際総合科学部の教育力の強化を図ることが重要であり、今後の課題である。</p> <p>○病院の経営に関しては、継続的な改善が認められる。ただ、収益の増や人件費の低減だけをうたうのではなく、より合理的な目標を掲げた経営を図るとともに、本当の教育と研究に教員の力が充分割向けられるような複眼的視野に立った工夫が必要である。学生の増員に対応する教育資源の充実も必要となる。</p>